

宝満山～若杉山縦走

【報告者】 I 藤

【日時】 2012年07月01日

【天候】 曇り

【参加者】 I 藤

《コースタイム》

西鉄太宰府駅 7:30－竈門神社 8:00－宝満山 10:00－三郡山 11:00－砥石山 12:45
－若杉山 14:30－JR篠栗駅 16:30

【負荷 15 kg】

《 報 告 》

今回3度目の縦走に挑戦する。

太宰府駅から天満宮境内の本殿裏を通過して、竈門神社まで徒歩30分で到着。

朝、私は右足指の爪に違和感があり絆創膏で保護し、なるべく気にしないよう歩く。

竈門神社本殿で無事山行の祈願。まずは、宝満山頂へ向かう。案の定、行き交う地元の方から励ましの言葉を頂く。相変わらず、私は表情に余裕さがなく、ザックの重みを感じながら、呼吸が荒くなりながらペースゆっくりめに上がる。

蒸し暑さで、体幹は発汗じわじわ。頸部から頭部にかけて火照る様な感覚。中宮跡を過ぎた辺りから、微風が吹き、湿ったシャツを乾かしてくれる。暑さも幾分か軽くなる。

宝満山山頂。やはり、右足指が痛む。腫れや出血は伴わない。とりあえずは、三郡山まで目指す。それからは、殆ど人に会うことはなく、長崎鼻の辺りで、突然の人影にギクリとする。中高年の女性がひとり立ち尽くしたまま静止している。どうやら、午後の雨天か雷雨が気になっているとのこと。私も同様であることを伝え、一言二言会話を後にし、軽く会釈して先を急ぐ。

三郡山まで向かう途中に、恰幅のいいカエルが横断する。私の視野に入れば、即エマージェンシーが脳に伝わり、心拍数が上昇、叫び、そして疲労困憊する。そんなカエルも私の声に驚いて慌てて飛び跳ねていく。「驚かせてごめんなさい。」と心の中でつぶやくが、なるべく私の前では動かぬよう草むらか土の中で見守って下さいと、理不尽な要求をお願いしてみる。

三郡山を越えると、霧による影響か、登山客はさらに見かけることはない。無言のまま、天候も気になりつつ、今はただ真っ直ぐ進むしか道はない。もし今、雨降れば、引き返そうかと思案していたが、次なる砥石山、若杉山を目指す。時々孤独感を感じ、何をしているのだろうと我に返るも束の間。樹木の枝や葉が大きく揺れ始め、幾つかの雫が体に滴下し、鳥たちが騒ぎ出す。雨かと思いきや、どうやら違った

ようである。もし今また仮に、雷雨が直撃すれば、雨具はどこで装着しようかと想定するが、見当たる場所はまずない。

とにかく前に進む。昭和の森に下山することも脳裏にあるが、今日に限って地図は携帯していない。誰もそうであろうが、遭難だけはしたくない。霧が数十メートル先に視界を遮るまま、踏み固められた登山道を再度確認して歩く。

鬼岩谷を過ぎたくらいから空が明るくなり、再び暑さを感じる。ショウケ越えの陸橋から車道を見下ろし一息つく。

最後の若杉山というか、若杉ヶ鼻へ。手前の急登をスマートにリズミカルに上がればいいものの、亀の甲羅…いや、違うザックが重い。思うように足が上がらない…。嘘のようなホントの晴れ間。宝満山、砥石山、三郡山の稜線が鮮明に見渡せる。

自己満足…達成感、充実感に浸ることわずか3分間。まもなく霧で覆われる。

帰途の車道ではまたもや足爪が痛む。そろりそろりと歩き、家路に着く。

そういえば、子どもの頃、部屋の窓から見える山のラインにはどうやって歩くのか疑問を抱いていたことがある。

30 数年経った今、(もちろん山は異なるが) 今このように実現できたことに喜びを感じ、支えて下さっているピナクルの皆様、両親、家族に感謝致します。